平成２６年度函館市学校教育審議会第１回総会　会議録

日　時	平成２６年６月２４日（火）　１６：００～１７：００
場　所	函館市役所８階大会議室
出　席	委　員　松　田　貞　子（函館市町会連合会理事） 高　村　昭　三（元函館市中学校長会会長） 佐々木　昌　子（旧南茅部町教育委員） 藤　井　壽　夫（函館短期大学教授） 見　澤　敏　弘（前函館市立亀田中学校長） 青　田　　基（函館市ＰＴＡ連合会会長） 平　田　千恵子（　　〃　　副会長） 高　橋　正　人（　　〃　　副会長） 照　井　千　津（　　〃　　常任委員） 吉　田　大　輔（　　〃　　常任委員） 大　堂　　譲（函館市小学校長会会長） 筑　土　清　彦（函館市小学校長会副会長） 高　橋　　登（函館市中学校長会会長） 澤　村　早　苗（函館市中学校長会） 紺　野　克　典（函館市小学校教頭会会長） 笠　島　美　教（函館市中学校教頭会副会長） 前　原　聡　子（函館市立はこだて幼稚園長） 事務局　山　本　真　也（函館市教育委員会教育長） 小　山　みゆき（学校教育部長） 平　井　尚　子（生涯学習部次長） 齊　藤　利　雄（学校教育部参事） 田　中　麻衣子（　　〃　　学務課主査） 西　山　貴　子（　　〃　　学務課主事）
欠　席	委　員　伊　藤　正　則（函館市町会連合会常任理事） 長　谷　くに子（函館市町会連合会理事） 藤　川　　隆（函館大学教授） 横　田　貴　之（函館青年会議所副理事長） 水　谷　哲　大（函館市ＰＴＡ連合会副会長） 林　　るみ子（函館市ＰＴＡ連合会常任委員） 相　澤　弘　司（北海道教職員組合函館支部長） 高　橋　勇　二（北海道教職員組合函館支部書記長）
傍　聴	２名

１　開　会

出席者１７名で過半数を超えているため，会が成立していることを宣言。

２　教育委員会挨拶（山本教育長）

３　委員および事務局紹介

４　諮　問

５　議　事

（１）第１グループ中学校の再編，第２グループ小学校の再編について

《事務局から，諮問事項等について説明》

本日，教育委員会から諮問したのは，函館市立小・中学校再編計画に基づく，第１グループ中学校の再編と第２グループ小学校の再編の２点である。

委員の皆さまに，審議していただく前に，諮問内容について少し補足説明をする。

諮問事項１つ目の第１グループ中学校は，西部地区の西中，潮見中，宇賀の浦中の３校である。

再編計画では，この３校を１校に再編する見通しとなっているので，統合校の位置および通学区域について検討していただきたい。

２つ目の第２グループ小学校は，第１期で中学校の再編が決定した中央部地区の小学校で，中部小，北星小，八幡小，万年橋小，港小，高盛小，千代ヶ岱小，中島小，千代田小，柏野小，金堀小，亀田小の１２校である。

こちらについては，再編計画において，１２校を７校にという見通しとなっているので，再編の組み合わせ，統合校の位置および通学区域について検討していただきたい。

次に学校教育審議会答申までの基本的な流れについて説明する。

配付資料の１ページをみていただきたい。

総会での審議の後，さらに具体的に諮問事項を調査・審議するため，「函館市学校教育審議会小委員会設置要綱」に基づき，小委員会を設置する。

小委員会は，会長の指名する委員１０名をもって組織し，活動内容としては，通学区域・学校施設の視察，保護者や地域の意向調査などを行い，答申案を作成する。

小委員会から答申案を総会に報告し，答申を決定した後，会長・副会長から教育長に答申を行うこととなる。

参考として，資料２に昨年５月に当審議会よりいただいた第１期の第２グループ中学校の再編についての答申書を添付した。答申書には，再編後の学校数，再編の

組み合わせ，統合校の位置，通学区域についてのほか，付帯事項として施設整備等について記載されている。

特に，各項目において，どのような観点から結論に至ったかという点については，本日の諮問事項の審議においても考慮すべきものと考えている。

例えば，第１期の答申では，１の再編後の学校数については，中長期的に学校規模が維持可能であるかといった点，統廃合の組み合わせについては，小・中学校の通学区域の連携や通学環境といった観点から検討し，結論に至っている。

また，２の統合校の位置については，通学区域内の中心にあることが望ましいことや，校地面積，現状の教室数，学校の周辺環境等を考慮したうえでの結論となっている。

これらの点について，今後の審議において，参考にしていただければと思う。

以上，答申までの基本的な流れについて説明した。

続いて，諮問事項の検討資料について説明する。

４ページ目をみていただきたい。

第１グループ中学校の状況についてまとめた資料である。

１つ目が学級数および生徒数の推計である。

まず，西中，潮見中，宇賀の浦中各校の推計，その下には，再編計画の見通しどおり，３校を１校に再編した場合の学級数および生徒数について記載した。

推計の考え方については，下の※印に記載しているが，２７年度以降の第１学年の生徒数は，平成２６年５月１日現在の住民基本台帳データを基に推計した。

また，学級数は，基本的には１学級の定員４０人で計算しているが，網掛けの箇所は，北海道で実施している少人数学級研究事業の対象となり，１学級の定員を３５人として学級数を計算している。

なお，特別支援学級は，年度による生徒数の推計が難しいため，本年度の状況のみ記載した。

教育委員会では，小・中学校再編の基本指針において，中学校の適正な学校規模を９～１８学級としているところであるが，平成２６年度において，西中，潮見中，宇賀の浦中の３校ともに４～６学級と適正規模を満たしておらず，今後，さらに生徒数が減少していく見込みである。

また，計画どおり３校を１校に再編した場合の学級数を見ると，９～１１学級と適正規模で推移する見込みである。

次に，４ページの右側は，３校の通学区域の図である。

各中学校の校区は色で区分し，青い線は小学校の校区を示している。

４ページ下の施設概要は，各校の校舎の建築年や耐震診断の調査結果，校地面積，屋内運動場の暖房設備，付設調理場の状況などをまとめたものである。

こちらは，統合校の位置を検討する際の資料としていただきたい。

次に，５ページだが，この資料は，第１グループ中学校各校を中心とした半径

２ｋｍおよび３ｋｍの円の範囲を図示したものである。赤い円が半径２ｋｍ，青い円が半径３ｋｍとなっている。

再編計画第１期の第２グループ中学校の再編では，再編後の通学区域は，統合校を中心とした半径２ｋｍの円内にほぼ収まる区域となったが，第１グループ中学校については，どの学校を統合校とした場合でも，半径２ｋｍの範囲に収まらない区域がでてくるということが，この資料からお分かりいただけるかと思う。

この区域の取り扱いをどうするかという点が，審議の際の課題の一つになるものと考えられる。

次に資料の６ページからは第２グループ小学校についての資料である。

６ページから７ページには，中学校と同様に学級数および児童数の推計，通学区域，施設概要を記載している。

まず，学級数および児童数の推計である。

推計の考え方は，中学校と同様だが，小学校については，平成２６年５月１日現在で生まれている子どもの数を基にしていることから，平成３２年度までの推計となっている。

１学級の定員だが，小学校は，１年生が１学級３５人，２年生以上は１学級４０人となっている。ただし，さきほどの中学校の資料と同様に，網掛けの箇所は，北海道で実施している少人数学級研究事業の対象となり，１学級３５人で学級数を計算している。

小学校の適正な学校規模については，１２～１８学級としているところであるが，現在，第２グループ小学校１２校のうち，適正規模となっているのは４校のみである。

次に７ページの右側の通学区域図であるが，小学校区を色で区分し，青い線は，第１期再編後の中学校の区域を示している。

計画における再編の見通しでは，１２校を７校に再編するとしているが，この図からわかるとおり，第２グループ小学校は，各校とも隣接校が複数あるといった状況であり，この１２校をどのような組み合わせで再編するのかという点が，第２期の再編を考えるうえで最も難しい部分になると考えている。

８ページは学校施設の概要である。先ほどの中学校の施設概要と同じ項目のほか，プールや付設学童保育施設の状況について記載した。

最後に９ページから１０ページには，各校を中心とした半径１ｋｍ，１.５ｋｍの範囲を図示したものである。

中学校の資料では，半径２ｋｍ，３ｋｍの範囲を図示したが，小学校については，小学校１年生の通学を考えると，中学校と同じ基準ということにはならないと思われるので，半径１ｋｍ，１.５ｋｍの範囲を示したところである。

この資料は，再編の組み合わせを検討する際に参考としてもらいたい。

資料についての説明は以上だが，この後，審議を始める前に，２つの諮問事項に

ついて，並行して審議を行うのか，あるいは，どちらか１つについて答申を決定してから，２つ目の審議に入るのかといった審議の順番について協議していただきたいのでよろしくお願いしたい。

《審議》

（会長）

審議に入る。

今，事務局から資料に基づき，答申までの流れ，対象グループの学校規模等について説明を受けたが，話にあったように，まず，２つの諮問事項を同時に話し合うか，どちらか一つを先にする，その場合には中学校３校と小学校１２校どちらを先にするか，そこのところを最初に決めたいと思うが，ご意見いただきたい。いかがか。

（委員）

統合校の場所の問題だが，宇賀の浦中であれば問題ないのだが，西中や潮見中になると現中部小の校区など半径３ｋｍ円の枠から外れる区域がでてくる。

そういうことを考えると，第１期の第２グループの時はグループ内だけと決めていたということだが，今回の場合は，通学区域を柔軟に考えて先に中学校の方を進めてもらえば，自然と小学校の方も進むのかなと思った次第である。

（会長）

確かに，今の校区で統合すると相当距離があるお子さんが出てくるという心配は当然出てくる。これは，小学校の学区等の関わりも出てくるのだが，その辺のところは少し柔軟に考えながら進めていく必要があろうかと思うが，いかがか。

（委員）

今の意見と重なる部分があるが，的場中は，３０年に向けて統合準備に入っているが，宇賀の浦中と的場中の距離もそんなに離れている距離ではないので，３０年に第１グループの中学校もスタートできるような段取りで進めていければ，校舎の施設を考えても，潮見中，西中，宇賀の浦中と考えた時には，簡単に中心になる，真ん中にあるという考えで，潮見中を統合校と考えると，今の宇賀の浦中の部分にかなり遠くなる部分がでてくるのだが，そこを的場中の地域とこの３校のスタートを一緒にできると，校区を柔軟に考えることも可能になってくるのかと思う。小学校の方にはちょっと申し訳ない気がするのだが，まず，中学校の方を第一にして進めていただけると校区の部分の考え方も非常に柔軟性を持って取り組めるのではないかなというふうに考えている。

（委員）

私も今のおふたりの方の意見に賛成である。

私は，また別の視点から考えたのだが，今，中学校が小さくなって，家庭科の先生が市内で５人しかいない。それはひとつの例にすぎなくて，中学校が小さくなっているので，免許外の指導はやむを得ない状況である。もちろん小学校も喫緊の課題ではあるが，より緊迫性が高いのは中学校の西中，潮見中，宇賀の浦中の方で，そちらを早く対応するほうが子どもたちの学力を保障する点でも大事なのではないかと思っている。

（会長）

そうすると，今お三方からお話があったように，特に通学区域については，少し柔軟に考えるべきだと，あわせて中学校のほうの再編のほうを先にやったほうが効率的ではないかというようなご意見のように伺ったが，そうするとこの諮問事項の第一のほうの中学校グループから進めるほうがいいかなというふうに思ううが，いかがか。

――――― 賛　　成 ―――――

（会長）

それでは，まずこれからの話し合いの順序として，当然小学校のほうも関わってくるが，第１グループ３校についてを先に審議するということで結論づけたい。付随していろんな話は小学校のことも出てくるかと思う。

続いて，この再編にあたって，特にこういうことを注意してほしい，今，実際にこういう問題を抱えているとか，さきほどお話あったように，免許外の先生が指導せざるを得ない教科がたくさん出てくると，しかもある教科の専門の先生が極めて少ないという問題等もあるが，その他何かないか。

どの資料を見ても相当小規模になっており，小学校でも学年１学級という学校が随分ある。中学校でもそういう傾向にあるが，学校の現状はどうだろうか。

（委員）

私の勤務している学校の現状をお話しすると，旧市内で一番校区の広い学校である。メリットとして，例えば行事の部分では，各町内会長等，常に２０名以上の来賓がいてくれるというように地域に守られた学校という部分がある。また，少人数ということで，教育のきめ細やかさという面では，十分に配慮しながら行っているのだが，さきほどもでたが，例えば，美術，体育あたりが専門の教員がいない状況で，５教科のほうを優先すると残りの４教科，一番情操教育に力を入れなければならない部分が落ちてしまうというような問題が非常にある。

それから，部活動の面で，本校では全て合同チームで，練習ひとつにとっても

なかなか平常の練習というのができない状態である。それから一番私たちが苦慮していることは，非常に固定化された人間関係の中で過ごしていることから，進学についてもその人間関係で進学先を選んでいくようなことが起きて，内向きに内向きにという部分が生徒の中でも保護者の中でも生まれているように思っている。

教育課程を編成するうえでも，横のつながりが出来にくく，縦関係だけで進んでいく部分があり，非常に苦慮しているような現状である。

（会長）

小規模校には，もちろんそれなりの良さもあるが，今お話あったように，いろんな問題も随分あるということである。

そのほか，統合にあたってご心配なことなど含めて何かないか。

（委員）

今，お話いただいた部分，部活動の話であるとか，免許外の先生が教えなければならない教科がたくさんでてくるだろうし，例えば，文化祭でも体育祭でも，学級対抗という形が１クラスだとできない，縦割りなどいろんなやり方は工夫されていると思うが，やはり同学年で切磋琢磨するという機会がもてない。もっと言うと，同じクラスで３年間進んでいかなければならない，さらに小学校が小さければ，９年間だってあり得ない話ではない。そうすると，やはりマイナスというか，子どもたちにとっては厳しい環境と考えていかざるを得ない。

そうすると，再編の基本にもあるように，中学校であれば，学年３クラス，学校として９クラス以上というような編制が維持できるような規模で組んであげたい。

そして，少子化で今現在も減っていっているが，これから先も数字を出していただいているようにさらに児童生徒数が減っていくということであるから，この１年，２年という短いスパンではなくて，５年，１０年と先を見た中で編制してあげないと，学校の再編は非常に大きな問題であるから，これをまた何年か後に再度統合再編ということになると子ども達にとっても幸せなことではないので，やはりそういう先の部分も見て望ましい学級数を維持できるような再編を進めてもらいたいと思う。

（委員）

私は，本当にそういう小学校１年生から中学校３年生まで１クラスでずっと行くという地域の児童をずっと見てきている。そういうなかで先生方の苦労，子どもたちにもいろんなプレッシャーがあり，刺激とか環境を考えた時には，生徒数が多い方が絶対いい。生徒数が多く，いろんな刺激があり，クラス替えがあり，

いろんな子たちといろんなふうに接して，いろんな先生にも出会ってというそういう環境づくり。

親もそれを望んでいるという中では，やはり，子どもを中心に，子どもの環境がどうやったら良くなるのかということを基本にこの会を進めてもらいたいと思う。

（会長）

この少子化の波は止めようがなく，子どもたちの将来のため，その環境づくりのためには，統合もやむなしというご意見が多いかと思う。

それでは，次回からは，第１グループ中学校３校について，少し具体的に進めていきたい。

以上で議事を終了する。

６　閉　会